



学校だより

(7月号) 令和元年6月27日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

◎ 夢 (ゆめ) に向かって ともに学びあう学校

- ・進んで勉強する子
- ・自分からあいさつのできる子
- ・仲よくたすけあう子
- ・じょうぶな子

《今月の生活目標》・ろうかは静かに右側を歩こう

七夕の願い

校長 河井 尚

文月となりました。文月の由来は、7月7日の七夕に詩歌を献じたり、書物を夜風に曝す風習があるからというのが定説となっているそうです（諸説あり）。

そこで、七夕にちなんで「いい話」をひとつ紹介しましょう。『頭の体操』で有名な多湖輝先生が監修した『思わずほほえむいい話』（PHP）からの抜粋です。あるお医者さんの講演での話だそうです。



ある下半身マヒの女性がいました。その女性は、左手も思うように動かせないのも、もちろん、車椅子を自分で動かすこともできません。外出、お風呂やトイレでの介助など、すべての世話はお母さんの役目になっていました。

ある年のことです。彼女を含めた障害者の方々のために七夕パーティが、ボランティアの人たちの手で開催されました。みながとても楽しそうにかざりつけをしていました。

私が、彼女に、「短冊はもう飾ったの？」と聞くと、「はい、私の願いは一つだけなので、短冊は一つ飾っただけです」と答えました。「一つだけ？なんて書いたの」と聞くと、「お母さんより一日だけ早く死ねますようにって書いたんです。お母さん、ずっと私の世話ばかりだから。私はお母さんがいないと困ってしまうけれど、お母さんには、私の世話をしなくてもいい日が一日でもあって欲しいな！って思って」

彼女は笑顔でそう言ったのです。私は感動してその話を、彼女の母親に伝えました。すると、彼女の母親は、「私も短冊に願いごとを書いてきますね」と言って、向こうへ行っていました。

飾りつけが終わってから、彼女の母親に、「短冊かざりましたか？」と聞くと、「ええ、あそこに」と上のほうを指さしました。ちょっと高い所だったので何て書いてあるのか読めません。

「何て書いたんですか？」と聞いてみると、

「ぜいたくを言わせてもらえば、娘より一日だけ長く生きさせてくださいと書きました」と、娘さんと同じ笑顔でした。

そして、「自分が楽をするために、一日長くと書いたのではありません。あの子が安心して天国へ行けるようにと思ひまして。一人ではお手洗いにも行けない子ですからね」と続けたのです。

この親子の絆を強く感じるとともに、その明るさに私は救われました。

友人に紹介されたものですが、初めて触れたときに、母娘の心の大きさとあたたかさ、そして強さに感動したことを覚えています。「願い」というと自分のことばかりを考えがちな私にとって、本当に鮮烈な母娘の「願い」でした。読まれた皆さんはどのようにお感じになりますか。



さて、児童のみなさん。1学期も残り少なくなり夏休み間近となりました。

それぞれの立場で1学期を振り返ると共に、夏休みの計画をしっかりと立ててください。夏休み全体の計画と1日の計画を同時に立てておくといいでしょう。生活リズムを崩さず、体調管理に気を配り、有意義な学期末と充実した夏休みを送ってください。